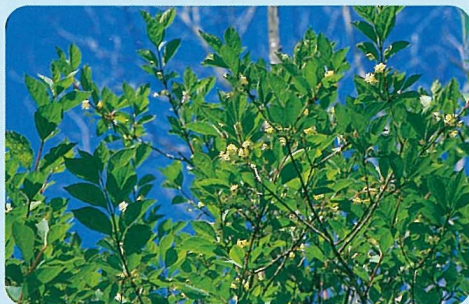


樹木園案内

筑波大学
菅平高原実験センター

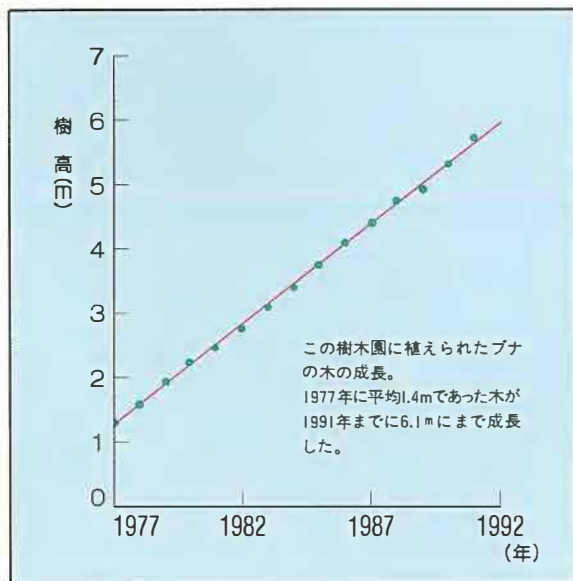


オニヒヨウタンボク

Lonicera vidalii Franch. et Savat.

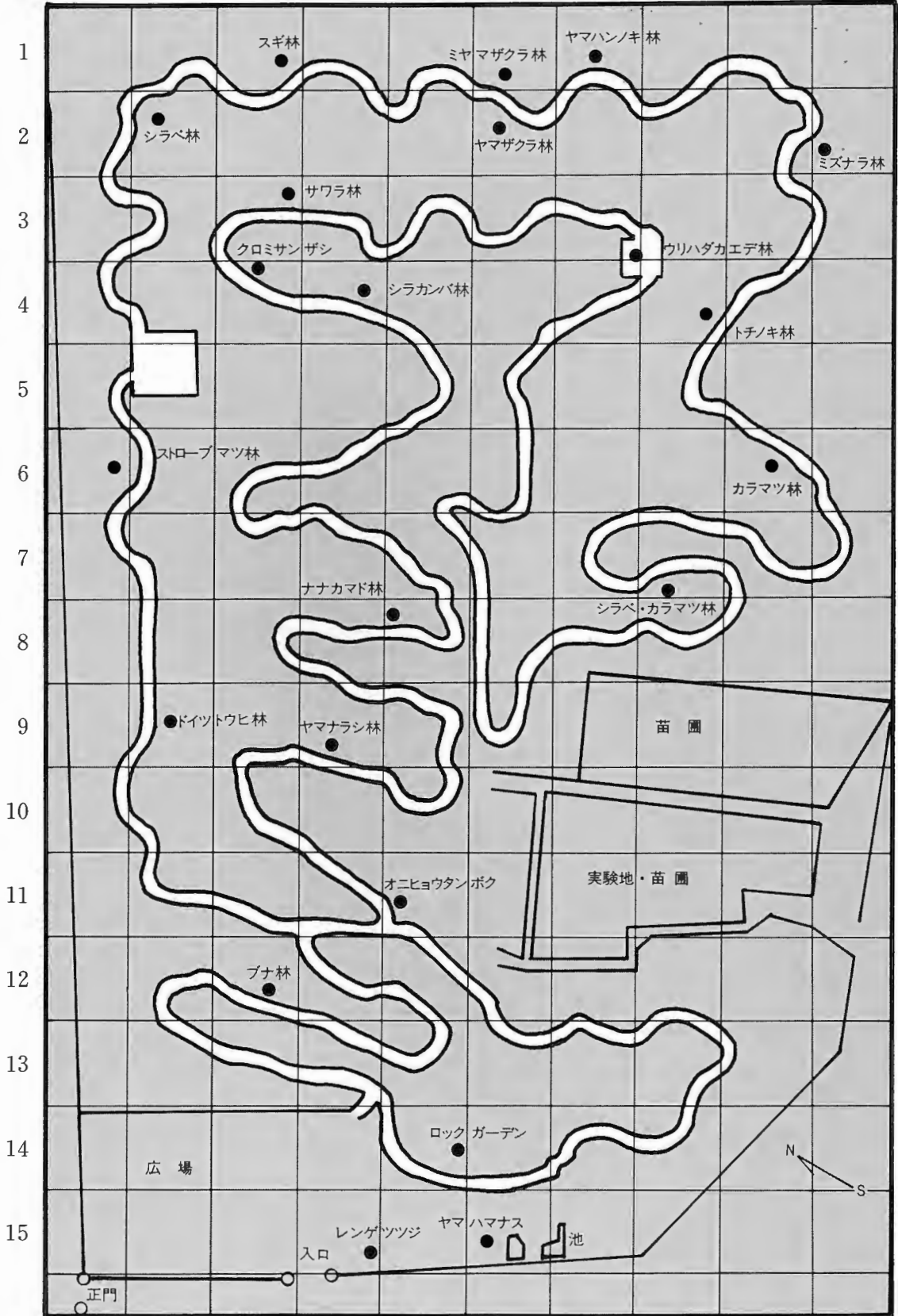
(1992)

大昔の、人がまだ住みついていなかった頃の菅平は、ブナ林で被われていた、といわれています。その後、人々が住みついて、伐採や放牧、農耕をくり返しているうちに、現在のような菅平の自然ができてきました。現在も、いろいろな開発が進められ、自然は変化しています。そこでこの樹木園は、この地に、菅平本来の自然林であるブナ林を復元しようとしています。そのために、園内の大部分にブナの幼樹を植えてあります。現在は、ヤマハンノキやシラカンバの林床に植えてありますが、やがて、それらが成長してブナ林をつくるものと思います。ブナの木を植えた後は、なるべく人の手を加えず、鳥が運んだり、風によって散布されてきたりする種子から芽生えた木が林をつくるように、自然のままに放置してあります。やがて、ブナ林をつくるようになるまでには、そこに住む昆虫や小鳥や小動物の数も増えてくるでしょう。こうして、ブナ林ができ上がるまでのプロセスを記録するのも、この樹木園の目的の一つとなっています。現在では、いろいろな大学の研究者や学生がブナの成長のようすや、それに伴う環境条件の変化、生物相の変化などを調べて



います。このようにして、この樹木園では、菅平の自然が、年々どのように移り変わっていくものかについて実験しています。園内には、ブナ以外にも、次の頁に示すような樹木が植えられていて、その名前を知ることができるようになっています。また、菅平の根子岳、四阿山の山頂付近の林であるコメツガ林やシラビソ林もつくられているので、ブナ林とそれらの林を比較して観察することもできます。

ア イ ウ エ オ カ キ ク ケ コ



樹木園観察路

0 10 20 30 40 50 (m)

園内の主な樹木

種類名の後の記号は左頁の図中の位置を示す。

例えば、アカエゾマツはイ列ア行の位置に植えられている。

マ ツ 科

アカエゾマツ (イ-7)
アカトドマツ (イ-3)
アカマツ (オ-14)
アオシラベ (イ-4)
アオモリトドマツ (イ-1)
ウラジロモミ (カ-3)
エゾマツ (ア-2)
アオシラビン (カ-1)
カライマツ (エ-6)
グイマツ (イ-3)
グローカトウヒ (ア-10)
コメツガ (イ-6)
シコクシラベ (イ-5)
シラベ (キ-8)
ストロブマツ (ア-6)
チョウセンゴヨウ (オ-1)
トウヒ (イ-7)
ドイツトウヒ (イ-9)
トドハダゴヨウ (ア-8)
バラモミ (ウ-6)
バンクスマツ (カ-9)
ヒメコマツ (オ-4)
ヒメマツハダ (ウ-9)
ヤツガタケトウヒ (イ-8)
ヨーロッパアカマツ (ア-4)
リキダマツ (カ-9)

ス ギ 科

コウヤマキ (ウ-6)
スギ (エ-1)
メタセコイア (エ-14)
クロベ (イ-3)

ヒ ノ キ 科

サワラ (ウ-3)
ニオイヒバ (ウ-3)
ヒノキ (ウ-3)

イヌガヤ科

ハイイヌガヤ (ウ-3)

イチイ科

イチイ (ウ-2)

ク ル ミ 科

オニグルミ (エ-7)
サワグルミ (ク-5)

ヤ ナ ギ 科

オノエヤナギ (オ-10)
ギンドロ (エ-8)
ドロノキ (カ-8)
バッコヤナギ (オ-9)
ヤマナラシ (エ-9)

カバノキ科

ウダイカンバ (オ-12)
コオノオレ (カ-12)
シラカンバ (オ-4)
ダケカンバ (オ-4)
ハンノキ (エ-8)
ヤシャブシ (カ-3)
ヤハズハンノキ (エ-13)
ヤマハンノキ (キ-1)

ブ ナ 科

カシワ (エ-11)
クヌギ (ケ-1)
クリ (コ-3)
ブナ (キ-3)
ミズナラ (コ-2)
コナラ (ケ-1)

ニ レ 科

ケヤキ (オ-10)
ハルニレ (オ-5)

ク ワ 科

ヤマグワ (エ-6)

ツ ツ ジ 科

サラサドウダンツツジ (ウ-2)
レンゲツツジ (エ-15)

エゴノキ科

コハクウンボク (エ-4)
ハクウンボク (エ-6)

モクセイ科

アオダモ (エ-1)
ヤチダモ (エ-2)

スイカズラ科

オニヒョウタンボク (オ-11)
オオカメノキ (キ-3)
ゴマキ (ウ-4)
ハナヒョウタンボク (オ-11)
ヒョウタンボク (エ-11)

モクレン科

コブシ (オ-3)
タムシバ (エ-4)
ホウノキ (エ-2)
ユリノキ (エ-3)

フサザクラ科

フサザクラ (オ-8)

カツラ科

カツラ (カ-3)

スズカケノキ科

スズカケノキ (ウ-14)

マンサク科

マルバノキ (ケ-5)
マンサク (ウ-5)

バラ科

アオナシ (カ-8)
アズキナシ (ウ-6)
ウワミズザクラ (ウ-3)
クロミサンザシ (ウ-4)
ズミ (オ-10)
スモモ (ウ-5)
タカネナナカマド (オ-14)
ナナカマド (オ-8)
ミヤマザクラ (カ-1)
ヤマザクラ (カ-2)
ヤマハマナス (カ-15)

マメ科

イタチハギ (エ-11)
イヌエンジュ (オ-3)
トゲナシニセアカシア (ク-3)
ニセアカシア (カ-11)

ミカン科

キハダ (ウ-3)

ウルシ科

ウルシ (エ-8)

カエデ科

アサノハカエデ (キ-3)
イタヤカエデ (エ-8)
ウリカエデ (エ-6)
ウリハダカエデ (キ-3)
オガラバナ (ク-2)
カラコギカエデ (エ-7)
シバタカエデ (ウ-5)
チドリノキ (ケ-3)
ハウチワカエデ (オ-8)
ハナノキ (エ-6)
ヒトツバカエデ (ク-4)
ヒナウチワカエデ (オ-8)
ミネカエデ (ク-2)

トチノキ科

トチノキ (ケ-4)

モチノキ科

イヌツゲ (オ-13)

ニシキギ科

コマユミ (オ-7)
ヒロハツリバナ (キ-2)
マユミ (オ-9)

クロウメモドキ科

クロツバラ (カ-5)

シナノキ科

オオバボダイジュ (エ-6)
シナノキ (オ-6)

ミズキ科

ミズキ (キ-2)

ウコギ科

コシアブラ (キ-2)
ハリギリ (エ-3)

リョウブ科

リョウブ (キ-1)

菅平の植物

菅平の位置と気象

北緯	36°31'14"
東経	138°21'03"
標高	1,320.7m
年平均気温	6.9℃
8月の平均気温	20.4℃
2月の平均気温	-5.8℃
暖かさの指数	60.3℃・月
寒さの指数	-38.0℃・月
年降水量	1,215.3mm
平均積雪深	94.6cm
日射量	4,870.61MJ/m ² /年

(気象資料は1981年から1990年までの本センターでの観測に基づく)

菅平は本州の中央部、上信越国立公園の東南端部にあります。年平均気温は6.9℃で北海道、稚内附近の海岸部の気候と似ていますが、内陸型に近く、一日の気温の差が大きくなっています。最低気温はマイナス28℃になった記録があります。8月の平均気温は20.4℃と夏でもとても涼しいところです。年間の雨量は約1,215.3mmで、雪は11月下旬に降りをはじめ4月上旬まで積っています。地形は、根子岳(2,207m)、四阿山(2,354m)の南西斜面に広がる高原と西部の大松山の山塊、

その間の盆地状の地域とからなっています。盆地の中央部には菅平湿原があります。これは、かつて根子岳、四阿山が噴火して川がせき止められ、そこにできた湖が、その後、次第に陸化して、現在の湿原として名残をとどめているものといわれています。

土壌は、火山灰を起源とした黒ボク土といわれる土です。

菅平の植物群落は、大きく次の三つに区分することができます。(1)根子岳、四阿山の頂上付近のシラビソ、コメツガなどの亜高山帯針葉樹林、(2)かつて、ブナやウラジロモミの林であったところが伐採されてできたダケカンバ、シラカンバ、アカマツの林やススキ、シバの草原、(3)菅平の低地に広がるハンノキ林とオニナルコスゲ、オオカサスゲの優占する湿原。根子岳、四阿山の針葉樹林の地域には、コケモモ、ガンコウラン、クロマメノキ、シラタマノキが生育し、さらに登ると、ハクサンオミナエシ、ヒメシヤジンなどが生育しています。この針葉樹林を下ると、ダケカンバ、シラカンバの林が広がり、標高1,300m付近からアカマツ林が多くなります。アカマツ林、シラカンバ林などが伐採された跡には、ススキの草原が広がり、その中にヤマハギ、マツムシソウ、グンバイズル、アヤメ、ウメバチソウ、アズマギクなどが生えています。また、ツキヌキソウも希に見かけることがあります。このススキ草原に放牧をするとシバ草原へと変わります。

平坦部は、レタス、キャベツ、ハクサイなどの高原野菜の畑となっていて、盆地の一番低いところには菅平湿原が広がっています。湿原には、下流側にハンノキーヤチダモ林、上流にオオカサスゲ、オニナルコスゲなどの優占する群落があり、中にハナヒョウタンボク、オニヒョウタンボク、クロミサンザシ(エゾサンザシ)、シバタカエデなどの珍しい植物が生育しています。また、根子岳、四阿山を刻む溪谷沿いに発達した林には、ミズナラ、アズキナシ、シナノキ、ヤマハンノキなどが繁茂し、独特な景観を見せています。それらの林縁には、ヤマハマナス(カラフトイバラ)の美しい花がみられます。



菅平大洞地区のブナ林